

軒先の雪対策で安心な冬を

■『新しい屋根雪を考えるNPO』設立(横手)

4月3日、Y²ぶらざで、市内の民間事業者らが構成員となり『横手市の新しい屋根雪対策を考えるNPO』の設立発表が行われ、費用を抑えた効果的な屋根雪対策について今冬の実証実験結果などが報告されました。

同団体は、屋根の軒先の雪をなくすことで、一斉に行われている雪下ろし作業が分散されるとして、市民に情報提供していくことにしています。照井康晴理事長は「実証実験の報告会などを行い、高齢者などが安心して冬を過ごせるよう取り組みたい」と話しました。



「屋根雪対策で市民に安心感を与えたい」と設立趣旨が述べられた会見



凧揚げに挑戦(左)、交通安全祈願の大凧や連凧など各地の凧が勢ぞろい

横手の空に舞いあがれ

■第26回横手凧揚げ大会(横手)

4月13日、グリーンスタジアムよこて駐車場で『自然との対話・風と遊ぶ』をテーマに、横手凧の会(木島久一会長)主催による凧揚げ大会が開催され、東北各地の団体や地元の家族連れなど約100人が参加しました。

子どもたちは、凧を高く揚げようと一生懸命に走り、糸を引いたりして凧揚げのコツを学びました。参加した旭小4年の佐藤滯さんは「凧が大空に舞うととても気持ちいい」と話してくれました。穏やかな春の空を、色鮮やかな無数の凧が彩りました。

華やかな雰囲気会場を包む

■全秋田ダンス選手権大会及び各級競技会

社交ダンスの愛好者が一堂に会して、技術を競い合う『2014年前期全秋田ダンス選手権大会及び各級競技大会』が4月13日、横手体育館で行われ、秋田県をはじめ東北各県などから、プロとアマチュアを合わせて、延べ294組が参加しました。

華やかな衣装を身につけたペアが、スタンダードとラテンアメリカンの2部門に分かれて、レベル別にダンスを披露すると、観客からは声援や拍手が送られ会場全体がダンスの魅力に包まれていました。



参加ペアの華麗なステップが観客を魅了

きれいな川に戻ってきてね (横手)



4月13日、蛇の崎川原で横手南ロータリークラブ主催のサケの稚魚放流が行われました。子どもたちは「横手川に戻ってきますように」と願いを込めながら稚魚を放流し、自然とのふれあいを感じていました。放流後、朝倉小学校2年の高橋優太君は「元気に戻ってきてほしい」と話してくれました。

新入生の交通安全を願い (大森)



4月7日、横手地区交通安全協会3支部(大森・八沢木・川西支部)より、大森小学校へランドセルカバーが贈呈されました。大森地域は昨年12月20日に交通死亡事故ゼロ継続1,500日を達成しており、贈呈後は記録の更新に向けて、交通安全への取り組み方針や課題について意見交換が行われました。

わくわく国民文化祭つうしん vol.12



●国民文化祭本番に向け、盛り上がっています

4月13日(日)、横手市民会館で第29回国民文化祭・あきた2014横手市応援事業の一つ『秋田ストリートダンス発表会 Keep On Dancing』が開催されました。

今年で7回目を迎えたこのイベントは出演者が200人を超え、会場も満席状態となり大いに盛り上がりました。緊張した表情ながらもひたむきに、そして華麗に踊る子どもたちが印象的でした。

国民文化祭の横手市開催事業である“ダンスフェスティバルin横手”の企画委員であり、Keep On Dancing実行委員会の代表でもある齊藤剛さん(市内根岸町)は「この秋の国民文化祭の本番に向け、出演した子どもたちや観客の皆さんにとっても良い刺激になったようです。この勢いで国民文化祭

“ダンスフェスティバルin横手”を盛り上げていきます」と熱く意気込みを語ってくれました。このように市内では芸術文化団体の皆さんによる芸術文化イベントが開催されています。

皆さん、お誘いあわせのうえ、各種イベントに足を運んでいただき、国民文化祭の開催に向けた盛り上がりを感じてくださいます!!

『ダンスフェスティバルin横手(ストリートダンスコンテスト)』は、10月26日(日)、横手市民会館で開催されます。



子どもたちが多彩な踊りを披露



わくわく国民文化祭つうしんでは、国民文化祭についての情報や、横手市での取り組みなどを紹介していきます。次回もお楽しみに!

●問合せ●市総務企画部国民文化祭推進室(市民会館内) ☎23-8508

穏やかな春の陽気に道端の草花も気持ちよさそうです。農作業も本格化しておりますが、事故のないように作業をしていただければと思っています。

さて、今年も5月28日にチャレンジデー2014が開催されます。先日、実行委員会の第1回総会が開かれ、各地域のスポーツ推進委員の皆さんなど関係者にご協力をお願いしました。

8地域の代表者が、予定しているイベントなどを紹介しましたが、それぞれに参加率を高めようとするアイデアが盛り込まれた内容に、皆さんのチャレンジデーにかけの意気込みを感じました。

チャレンジデーは1983年にカナダで始まり、日本では笹川スポーツ財団がコーディネーターとなり、1993年から実施しているとのこと。カナダで

市長便り ■ 05

横手愛

横手市長 ■ 高橋 大



昨年のチャレンジランでの横手市スポーツ大使・高橋勇市さん(中央)のゴール

は11年間実施した結果、週2回以上スポーツする人の割合が20パーセントも上昇したとのデータもあるようです。

対戦相手の大阪府柏原市は、人口が7万2千人あまりで、昨年の参加率も70パーセント近い強豪です。

チャレンジデーが契機となって、スポーツに親しむ人が増え、一人ひとりが心と身体を豊かにし、生き生きとした地域社会を築くという私たちの理想に、少しでも近づいていきたいと思っています。